

聖学院大学の教育方針

聖学院大学は、開学の当初より「聖学院大学の理念10ヵ条」（以下「理念」という）を擁し、プロテスタント・キリスト教の精神に基づく人格教育を行ってきた。それは、神によって創造されたかけがえのない存在である学生を愛し、その魂の健全な成長を配慮しつつ、リベラルアーツを基盤とする専門教育をとおりて各人の個性を引き出すことである。それは、コミュニケーション力や判断力などの業務遂行能力を高め、現代の市民社会の各分野でその担い手として貢献できる人物の育成にほかならない。

現在各大学は日本社会から「大学教育の質保証」を問われているが、本学はこの理念に基づく教育方針の貫徹をもってその応えとしたい。具体的には、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションに分けて以下のとおり「聖学院大学の教育方針」を宣言する。また各学部・学科・研究科ごとの固有の方針も掲げる。

ディプロマ・ポリシー

聖学院大学は、「聖学院大学の理念10ヵ条」に即した価値観および総合的判断力を備え、自由と人権を重んじ、隣人愛と使命感をもって人類の平和と福祉の実現のためにグローバル社会の各分野で貢献できる人材を育成する。このような人材に求められる、①幅広い教養、②専門的知識、③人間力（共感力、対話力、実践力）の修得を大学全体の共通目標とし、学部学科のディプロマ授与方針を満たした学生に学士のディプロマを授与する。

カリキュラム・ポリシー

聖学院大学は、上記ディプロマを授与されるに相応しい学生の育成のため、礼拝と授業と大学行事をとおりて行われるキリスト教人格教育を中心としながら、基礎教育の充実と教養教育を深め、同時に各学部学科の専門教育を行う。

キリスト教人格教育とは、何よりも神によって創造されたかけがえのない存在である学生一人ひとりを愛し、その人格を重んじ、その魂の健全な成長を配慮しつつ、聖学院教育憲章に謳われている「Only one for others」の精神をもって、人間一人ひとりの自由と人権を守り育成する教育である。そのために、少人数教育を重んじ、人と人との人格的な触れ合いを大事にしていく。

またこの人格教育を中心にして、基礎教育の充実とともに幅広い教養を身につけるためのリベラルアーツ教育を行っていく。これは、学生一人ひとりが、自分の置かれた状況を的確に判断し、自分にとっても他者にとってもより良い生き方ができる道を模索し、選び取り、行動できる、そうした主体性を確立する教育である。そして、こうした土台の上に、各学部・学科の専門教育が行われ、そのためのカリキュラム体系が形成される。

アドミッション・ポリシー

聖学院大学は、上記カリキュラムに即した教育を受けるに相応しい学生を選抜、あるいは見出すため、「理念」に共感し、神から与えられた固有の賜物を人間形成的に、学問的に本学で開花させたいと願う志望者を種々の選抜方法により、受け入れ、あるいは見出して行く。

2010年9月22日制定／2015年11月11日更新／2017年3月8日更新／2020年12月9日改定

基礎総合教育部のカリキュラムポリシー

3 学部に通じた大学教育のための基礎あるいは教養を身につけるために、以下のとおり基礎総合教育課程を設ける。

①全学共通教育

初年次に聖学院大学論、語学、ICT、身体知その他に関わる学修をとおして、表現、伝達などのコミュニケーション能力を高め、責任ある市民として社会に参加するための思考方法や知的技術力を身につける。

②キリスト教教育

初年次にキリスト教概論、3 年次に学部学科の専門分野を踏まえたキリスト教の考え方を学ぶとともに、2 年次には、多彩なキリスト教関連のリベラルアーツ科目により、本学の基盤であるキリスト教に基づいた人間性（人生観、生き方）および世界（社会）の有り様を理解するとともに、多様な関連分野に触れることにより豊かな情操を身につける。

③教養教育

初年次に、基礎的学問からなるリベラルアーツ科目をバランスよく学び、専門にとらわれない柔軟な思考を身につけるとともに、他学科の授業を受講する際の基礎を学ぶ。

④シティズンシップ教育

初年次に、社会人として必要な基礎的知識を高める。2 年次には、自分、社会、仕事を知ることにより基礎的態度やキャリアプランニング能力などを身につける。3 年次には、社会、仕事をより深く学ぶことにより、就業力を身につける。国の内外でのインターンシップ等も経験し、総じて、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を習得する。また、コミュニティスタディやグローバルスタディに関わる学修をとおして、世界と社会・地域で他者と共に生き、課題解決に取り組む主体的な市民に必要な知識と実践力を身につける。

2010年 9 月22日制定／2014年 2 月19日追記／2015年11月11日改定／2019年 1 月 9 日改定／
2020年12月 9 日改定／2022年 7 月13日改定／2025年 3 月12日改定

4 政治経済学部・政治経済学科の学科課程について

政治経済学部政治経済学科のポリシー

ディプロマ・ポリシー

本学科は、卒業履修単位を取得し、所定の課程を修めた以下を満たした者に対し、学士号（政治経済学）を授与する。

- ① 政治経済を基礎として、自らの興味関心に応じて、社会科学（政治学・経済学・経営学・社会学・情報学・法学）に関わる専門知識を身につけ、社会の多様な問題を総合的に理解できる【知識】
- ② 現代社会が直面するさまざまな課題に対し、グローバルおよびローカルの両方の視点から考察し、自身の表現で説明できる【場・視点】
- ③ 実学的かつ実践的な学びに対し、主体的に問いを設定し、自ら探求し、行動することができる【態度・意欲】

カリキュラム・ポリシー

- ① 現代社会に対応しうる問題解決能力や批判的想像力を身に付けるために、体系的、多角的、領域横断的な学びを促進するために専門科目を提供する。【6つの専門分野】
- ② 思考力、共感力、傾聴力、発信力を培うための少人数の参加型授業を実施する。【少人数】
- ③ 判断力、行動力、協働力を身に付けるために、発表、討論、プロジェクト型学習など実践的に取り組む機会を設ける。【アクティブラーニング】

アドミッション・ポリシー

- ① 基礎的学力をそなえ、自らの知的好奇心に従い、勉学に励み、努力する人を求める。【学習意欲】
- ② 現代社会に通用する幅広い知識を身につけ、社会的な役割を担い、貢献したい人を求める。【貢献性】
- ③ 多様な価値観に向き合い、他者との相互理解を図り、協働する人を求める。【協調性】
- ④ 国内外における多様な課題を見出し、興味関心をもって、社会・経済・地域の活動に積極的に取り組む人を求める。【積極性】

2017年3月8日制定／

2022年7月13日改定（2023年6月14日ポリシー名称を政治経済学部政治経済学科のポリシーに修正）

5 人文学部・欧米文化学科の学科課程について

人文学部のポリシー

聖学院大学人文学部は、近代世界の成立と展開に独自の貢献を果たし、現代社会においても固有の責任を負っているプロテスタント・キリスト教の役割を基盤とし、真理の探究と成熟した人間形成を通じて、日本はもとより他国の人々をも含む人類全体の文化の進展に寄与する人材を育成する。

ディプロマ・ポリシー

本学部では、所定の課程を修めるとともに正課外活動等における総合的学びを通じて、以下のような能力を身につけた者に対し学位を授与することとする。

- ①キリスト教を基盤とした学びを通じて人間理解と社会理解を深め、「他者とともに生きる力」を発揮し得る能力。
- ②学問の基礎と幅広い教養を学ぶのみならず、それらを多彩な表現力によって発現することで社会のために主体的に貢献し得る能力。
- ③グローバリゼーションによって文化の地平が広がる中で、世界全体の文脈の中で持続的に「文化」の意義を問い直し、新たな文化交流と文化創造を切り開く広い視野と行動力。
- ④教職を志望する者については、以上を通じて身につける教養、知識、能力に基づき、「未来を担う者を育てる人材の育成」を目標とする教職に就くにふさわしい人間性と力量を形成する。

カリキュラム・ポリシー

- ①キリスト教精神に触れることで世界や社会をめざす視野を広げ、深い人間理解をなし得る科目を設置する。
- ②初年次導入教育を基盤として少人数教育の利点を生かす中で、文章力、読解力、思考力を伸ばし、プレゼンテーション力を含む自己表現力と言語的コミュニケーション力を養成する科目を設置する。
- ③人文学の基礎的理解と多面的理解をめざし、社会で要請される倫理観とグローバル及びローカルな考察力、行動力を育成する科目を設置する。
- ④「学びの主体」の意欲を醸成しつつ、歴史・文化・言語についての理解を得、必要な語学力を身につけ、さらには国内外でのインターンシップを行う研修制度などにより、教育分野をはじめ様々な分野で幅広く活躍できる職業人を育成する漸進的プログラムを設置する。

アドミッション・ポリシー

- ①キリスト教の文化や考え方を学ぶことを通して、自分を見つめ、「良く生きる」ということをじっくり考え、他者と関わろうとする人を求める。
- ②表現力やコミュニケーション力を強化することで、自身の持つ可能性を再発見、育成し、自立した社会人となることを目標としている人を求める。
- ③文化に対する知識、体験を国内外に紹介、発信することを通じてグローバル及びローカルな場で貢献をしたいと考えている人を求める。
- ④大学という場で自らが文化を学び、体験することを通じて、「文化の継承者」を育成することに熱意を持つ人を求める。

2017年4月12日制定

人文学部欧米文化学科のポリシー

ディプロマ・ポリシー

- ①国際人として世界を舞台に活躍するための、責任ある主体性やコミュニケーション力を習得する。
- ②グローバル世界に大きな影響力を持つ欧米文化についての知識や、それを源流とする思考法を身につける。
- ③現代国際社会の複雑な多文化状況を読み解き、文化的問題の解決に貢献するための文化的批判力を習得する。
- ④こうした育成目途に即した学科目を履修し、学科所定の卒業履修単位を取得した学生に、学士（欧米文化学）の学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー

- ①グローバル世界で活躍するための主体性や実働的な働く力を養い、さらには自ら国際育人に貢献するための教育力を育てる。
- ②文化現象や文化的作品を読解する批判力を育てる。また言語を通して異文化や社会と関わるコミュニケーション力を訓育する。
- ③現在のグローバル情勢への知識や洞察力を深めるとともに、異文化への共生的態度を涵養する。
- ④少人数制初年次教育で、オリジナルテキストを用い、学びに必要な基礎力の徹底的訓練を行い、これに続く演習科目により論文作成、プレゼンテーションやディスカッションの能力を育てる。

アドミッション・ポリシー

- ①ヨーロッパやアメリカの文化に接することで、自分の視野や考え方、生き方、行動力を広げたい人を求める。さらに実社会で必要になる理解力、考察力、文章表現力、コミュニケーション力を伸ばして、国内外で活躍したい人を歓迎する。
- ②海外留学をしたい人、将来海外で活躍したい人、英語を用いて働きたい人、英語が好きな人や伸ばしたい人、欧米の諸言語を学びたい人など、外国語でのコミュニケーションを活躍の力にしたい人を求める。
- ③文学・歴史・映画・思想など、様々な文化のジャンルのある分野に関心を持ち、文化を理解する力や新たな文化を創造する力を伸ばしたい人を求める。

2010年9月22日制定／2015年11月11日改定

ディプロマ・ポリシー

- ①日本の社会や文化の課題に、世界の中での日本を見つめるグローバルな視点から取り組むことができる人として活躍できるための、人文学の幅広くかつ深い学識を習得する。
- ②歴史的・文化的・精神的な遺産を、正しく理解し尊重する専門的な知識にたつて、さまざまな持ち場で活躍できる市民としてのあり方を身につける。
- ③文章表現や言語的コミュニケーションの力を習得し、積極的な自己実現の意欲と、同時に他者を尊重する態度を涵養する。
- ④こうした育成目途に即した学科目を履修し、学科所定の卒業履修単位を取得した学生に、学士（日本文化学）の学位を授与する。

カリキュラム・ポリシー

- ①歴史学、文学、語学、哲学等の人文学をふまえた専門的知識と倫理観をもって、社会と文化の諸課題に意欲的に取り組む能力を育てる。
- ②常に、グローバル化する世界、また特に東アジアの近隣関係における異文化と多元的な価値観をふまえつつ、日本の歴史・文化の深く広い知識を自らのものとする。
- ③文章理解力・文章作成力・会話を伸ばし、言語能力を高めることで、的確な自己表現力とコミュニケーション能力とを育てる。
- ④その他（さらなる目標として）
 - 1）人文学の専門性の高い学問に学び、その学問の方法論を理解し、修得することを目標とする。
 - 2）学校教育に関わる専門的知識を養い、教育水準の向上と課題解決能力を身につける。
 - 3）文化的発信・異文化との交流をめざして、日本文化の幅広い学識の上に立って日本語教育にたずさわることのできる能力を身につける。

アドミッション・ポリシー

- ①知的好奇心にあふれ、柔軟な感性をもって、学習や文化的活動に自主的意欲的に取り組むことのできる人を歓迎する。
- ②日本の歴史・文学・思想・文化のさまざまな領域について、高校までの学習の上に、さらに幅広く、かつ、深く学びたいと願っている人を求める。
- ③日本の文化を多面的に学ぶことで、世界のグローバル化の中で、自己を知り、他者を知る態度を、正しく身につけることに関心のある人を受け入れる。

2010年9月22日制定／2022年10月12日改定

ディプロマ・ポリシー

- ①「人間学を基底においた児童学」を通じて培った他者理解の方法論を基にして、言葉・子どもの文化・人間関係に関する素養を身につけた人を育てる。
- ②発達理論や心理学の知識を土台にして子どもの「言葉にならない思い」を汲むことができるとともに、対人援助技術を身につけコミュニケーション力を活かして社会で活躍できる人を育てる。
- ③異文化を背景とした「子どもの育ち」を応援できる、グローバル化に対応できる人を育てる。
- ④資格取得を求める学生に対しては、責任感と倫理観を備えた子どもを育てる専門人として、子どもとその家族の良きパートナーになり、子どもが生きやすい環境づくりと社会全体の福祉に貢献できる小学校教諭、特別支援学校教諭、幼稚園教諭、保育士となるよう育成を図る。

カリキュラム・ポリシー

- ①初年次において人間学を基底においた児童学の入門科目、人文学の基礎的理解を目指す科目、社会的に要請される倫理観を育てる科目を設置する。
- ②課題探求力、問題解決力を高め、表現力、コミュニケーション力、記述力を育てるため、少人数で行う演習科目を設置する。
- ③異文化を背景とした子どもの育ちや子育てを支える実践力を養成するために、異文化理解や実践的英語力を身につける科目を設置する。
- ④深い他者理解とコミュニケーション力を生かし、実践的な対人援助技術を身につけた専門的職業人を育成するため、複数の系統的な学修プログラムを設置する。

アドミッション・ポリシー

- ①人に関心を持ち、子どもの人格とまっすぐに向き合い、個々の子どもを深く理解しようとするとともに、子どもの文化を知ろうとする人を求める。
- ②日頃から身のまわりのことや社会のことに関心を持っている人、仲間と協働し、より良い人間関係を築こうという意欲を持ち、教育や保育に携わることを希望する人、あるいは子どもを見守る社会の一員になろうとする人を求める。
- ③他者との関わりを大切にし、自己の主張だけにとらわれず他者の声にも耳を傾け、自らの人格を高めようとする人、またそのために必要な知識・技能や教養・学力を身につけようとする人を求める。

2017年4月12日制定／2022年6月15日改定

8 心理福祉学部・心理福祉学科の学科課程について

心理福祉学部心理福祉学科のポリシー

125S

ディプロマ・ポリシー

- ①心理学と福祉学を中心に、現代人の心理と現代社会における福祉的課題に関する専門知識を修得し、「良き隣人」となって共生社会の実現に資するための基礎的な知識と能力を身につけた者に学士（心理福祉学）の学位を与える。
- ②現代人の心理と現代社会における福祉的課題に関する専門知識を修得し、共生社会の実現に資するための基礎的な知識と能力を身につけたうえで、演習・実習を通して心理学研究法および心理学的支援の技術を修得し所定の科目を修めた者には、学士（心理福祉学）の学位を与え、「公認心理師となるために大学で修めるべき科目」を修めたことを証明する。（公認心理師国家試験受験資格を取得するためには、本学科卒業後に大学院課程を修了もしくは指定機関における実務経験を得る必要がある。）
- ③現代人の心理と現代社会における福祉的課題に関する専門知識を修得し、共生社会の実現に資するための基礎的な知識と能力を身につけたうえで、演習・実習を通して社会福祉士に必要なソーシャルワーク技術を修得し所定の科目を修めた者には、学士（心理福祉学）の学位に加えて社会福祉士の国家試験受験資格を与える。
- ④現代人の心理と現代社会における福祉的課題に関する専門知識を修得し、共生社会の実現に資するための基礎的な知識と能力を身につけたうえで、演習・実習を通して精神保健福祉士に必要なソーシャルワーク技術を修得し所定の科目を修めた者には、学士（心理福祉学）の学位に加えて精神保健福祉士の国家試験受験資格を与える。

カリキュラム・ポリシー

- ①現代人の心理および現代社会における福祉的課題を扱う講義科目を配置し、学生はその関心・目的に即して主体的に選択できるようにする。
- ②体系的な学習を容易にするため、3つの履修モデル——「共生社会モデル」「心理学モデル」「福祉学モデル」——を用意する。
- ③講義科目においては主体的な学習の機会を設け、専門演習および卒業研究からなる「演習科目」では、さらに能動的な学習を行うことで、講義科目を通して修得した専門知識の深化をはかる。
- ④公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格取得をめざす学生のためにその受験資格を得るために大学等で修めるべき定められた科目を置き、演習・実習等を通して専門的な職務遂行に必要な基礎的知識・技術を修得させる。

アドミッション・ポリシー

- ①人の「こころ」に強い関心を抱く人、人と社会の関わりに関心がある人、よりよい人間関係を築くことに意欲のある人、あるいは支援を必要とする人びとの心理・社会的課題を理解し、共感し、支援する能力を得たいと希望する人を求める。
- ②誰もが幸せに生きることのできる共生社会の実現を目指して、さまざまな場面で人や社会の役に立ちたいと希望する人を求める。
- ③心理や社会福祉等の知識を修得し、公認心理師、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格を取得して、専門職として支援の現場で活躍することを希望する人を求める。

2017年4月12日制定／2023年7月12日改定